

ワーキング部会報告書

第2部会	C班	開催日	平成26年9月4日(木)	会場	さいわいプラザ6階 大会議室
テーマ	保育ニーズを支えるには～今後10年の0・1歳の保育ニーズの担い手づくり～				
内 容					
○「命の教育」について					
<ul style="list-style-type: none">・若い世代は子どもと接する経験が以前に比べて乏しく、コミュニケーション能力が低い。・子どもやお年寄りと接する経験を増やし、「命の重み」を知ることで、子どもへの愛情が増す。・「家族と一緒に食事を取る」、「なるべく居間で過ごすようにする」など、家庭教育を推進すべき。・ファミサポ事業＝「地域のおばちゃんち」。様々な世代と生涯にわたり交流することができる。・潜在保育士は多くいるが、現場に戻る保育士は少ない・給料の低さ、3Kと言われる保育現場が離職の原因。子どもへの愛情を思い出してほしい。					
○退職世代を保育に組み込むには					
<ul style="list-style-type: none">・退職世代の担い手は多いが、自宅で他人の子どもを保育することに抵抗感のある方もいる。・公民館や子育ての駅、企業内スペースなど、保育の場所を提供する必要もある。・おじいちゃん向けの「子どもと遊ぶ事業」を用意し、子どもの可愛さと楽しさを知ってもらう。・今あるイベントやサークルを活用する。(例: 男の料理教室に孫と一緒に参加)・地域の子どもと接する機会を作る。そのためには取りまとめる中心人物が必要。・「老人」という言葉に抵抗があるため、「OB」など、抵抗感の少ない言葉を用いる。・実家および地域で子育てをすることが理想。					